1. はじめに

1.1 経済とは？
1.1.1 物質代謝を効率的・社会的に行うということ
1.1.2 商品売買としての経済活動
1.1.3 金儲けとしての経済活動
1.2 経済学とは？
1.2.1 経済学の対象
1.2.2 経済学の方法

今回の課題

- 経済というものがどういうものなのか，三つのアスペクトから整理する。
- 経済学というものがどういうものなのか，大まかなイメージを与える。

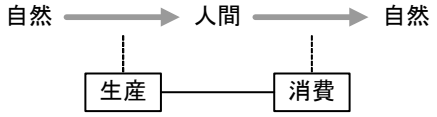
キーワード

物質代謝，市場経済，資本主義経済

1.1 経済とは？

1.1.1 物質代謝を効率的・社会的に行うということ

いつの時代のどの社会でも，人間は，自分に与えられている自然から自分にとって必要なものをつくりだし（生産），それを使い（消費），やがては自然に返していく。人間も自然の一部分としてこのような自然のサイクルの中にいる。このようなサイクルのことを**物質代謝**と呼ぶ。物質代謝を行うのは，なにも人間だけではない。どの生物も物質代謝を行っている（ただし，人間以外の生物の場合には，生産と消費とがはっきりと分かれているわけではない）。



けれども，「2. 労働と人間」で見るように，他の生物とは違って，人間は，労働を通じて，この物質代謝を――動物のように本能のおもむくままに行うのではなく――，自分の意志で，自分のやり方で，合理的・効率的に行うことができる。こうして，人間は，この物質代謝に必要な労力・時間をどんどん減らし，また物質代謝のあり方をどんどん多様にしていくことができる。また，このことを通じて，人間の場合には，生産と消費とがはっきりと分かれるようになる。

さらにまた，「3. 労働と社会」で見るように，人間は，労働を通じて社会を形成し，社会の中でこの物質代謝を行っていくようになる。社会の中で物質代謝が行われるようになると，自分が生産するものと，実際に自分が消費するものとは一致しなくてもいいようになる。たとえば，どのような社会を考えても――商品交換が行われていようといまいと――，自分が消費するよりも多くの米を生産し，それを社会のメンバーに分配したり，経済成長のためのファンドにすることができる。このように，人間の物質代謝には，人間と自然との関係だけではなく，人間と人間との関係も含まれているのである。

このような，物質代謝の効率的・社会的な運営が経済活動の最も一般的な含意であり，そのような活動が行われているシステムが経済システムの最も一般的な含意である。

すでに見たように，経済活動――つまり人間の物質代謝の営み――の特徴の一つは，物質代謝に必要な労

Memo

力・時間その他を減らすことができるということであった。だから，よりいっそう，そのような，労力・時間その他を減らすことができれば，それだけますます「経済的だ」と言うことができる。また，英語の economy には「節約」という意味があるし，また一般に economize という動詞は「節約する」ということを意味するが，それも，労力・時間その他を減らすことができるという，人間の経済活動の合理的・効率的な側面を表している。

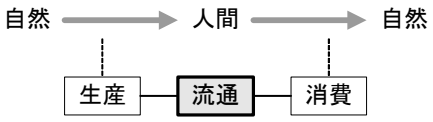
自然は，人間社会の中で，人間によって，人間の欲求に合うように加工され，社会的に分配可能になると，「富」と呼ばれるようになる。したがって，この面から見ると，経済システムは，富をつくりだし（生産し），富を使う（消費する）システムである。

以上の意味での経済は，なにも現代経済，つまり現代社会システムにおける経済システムにだけあてはまるものではない。そうではなく，およそ人間が人間社会を形成し，その中で経済活動を行う限り，いつの時代にも，どんな社会にも，必ずあてはまるものである。

1.1.2 商品売買としての経済活動

「あっちのスーパーなら 10 円安いのに……。男の子って経済観念がないのね」（こまっしゃくれた小学生の A さん語る）

すでに述べたように，人間は社会の中で物質代謝を行う。それは，富が社会のさまざまなメンバーの手にわたっていくということを意味していた。現代社会では，そのようなプロセスは，市場の中で，商品売買――貨幣で商品を買い，貨幣と引き換えに商品を売るという交換――を通じて，行われている。すなわち，生産と消費とのあいだに流通という社会的な過程が入り込んでいるのである。



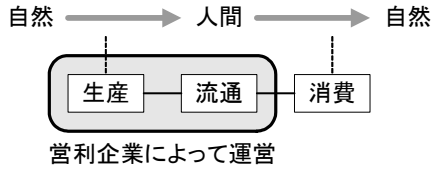
そこでまた，市場社会としての現代社会をイメージするかぎり，「市場の中で，商品売買を通じて物質代謝が効率的・社会的に行われる」というのが経済活動の含意になってくる。

さきほど economy は労力・時間その他を減らす「節約」という意味をもっていると述べた。実際には，節約という意味で economy を使う場合には，大抵，お金（＝貨幣）の節約のことを意味している。また，飛行機にエコノミークラスがあるのをご存じだろう。この場合の economy は要するに「安価な」という意味だが，これもまたお金を減らしているからこそ安価なのである。

1.1.3 金儲けとしての経済活動

「俺たちゃ経済活動をやってんだよ。慈善活動やってんじゃねーよ」（熱烈企業戦士の B さん語る）

現代社会は市場社会であるだけではない。現代社会は，金儲けを主要な動機とする「資本」と呼ばれるものが主役を演じる資本主義社会である。あるいは，「現代社会は資本主義社会だ」と言う場合に，それは，現代社会が，金儲けをめざす資本という経済的な主体が主役を演じているということを含意している。



後に見ていくように，資本主義社会は市場社会を前提し，また市場は資本主義社会においてはじめて社会の隅々までその領域を広げるのだが，しかし，市場社会と資本主義社会とは同じではなく，区別されなければならない。そこでまた，資本主義社会としての現代社会をイメージするかぎり，「資本が金儲けをめざして物質代謝の効率的・社会的な運営を担っている」というのが経済活動の含意になってくる。つまり，経済活動が金儲けの活動になっているわけである。

Memo

1.2 経済学とは？

1.2.1 経済学の対象

経済学は現代社会システム，すなわち資本主義的な社会システムを考察する。ただし，まさに現代社会システムが資本主義的な社会システムであるという，つまり経済システムであるという，現代社会システムの土台から，現代社会システムを把握するのである。

社会システムを構成しているのは経済だけではない。政治も文化も法律もそれ自身のストラクチャー（＝構造）をもっている。しかし，前近代社会では，経済は政治とか文化とか法律とかから区別されてはいなかった。これにたいして，現代社会では，経済がその他の社会的なストラクチャーから分かれ，またそれだけではなくその他の社会的なストラクチャーの基礎をなすようになる。

すでに見たように，「経済」という言葉には三つのレベルの含意があった。現代経済を考察することによってこのような経済の三つの層を統一的に把握するのが経済学の課題である。この講義でも，最初にまず，人類社会一般に通用する経済の問題を考察する。次に，現代社会が市場社会としてもっている側面を考察する。その後で，現代社会が資本主義社会としてもっている側面を考察する。

1.2.2 経済学の方法

1.2.2.1 システムをトータル（全体をなすものとして）に把握する

われわれの目の前にある経済的なカテゴリー（たとえば商品とか，利子とか，企業とか，労働者とか）はたがいに関連しあっており，経済システムはこの関連の全体である。経済学は，経済システムをこのような全体として，トータルに把握する。こうして，経済学は，それらのカテゴリーがどういう関係にあるのか，どういうふうに関連しあっているのかを教えてくれる。

1.2.2.2 システムをラディカルに（根本から）把握する

社会システムは，大昔に一度できあがったらそれで終わりというものではない。そうではなく，毎日まいにち，いや毎秒まいびょう，社会システムが生みだされているのである。そして，社会システムを生みだすのは，結局のところ，人間の活動である。したがって，“根本から把握する”ということは，人間がどのようにシステムを生みだしているのかを，把握するということである

Memo